



●振 鈴

(1) 分校を顧みて(思い出の垂坂分校より)

年次	記 事	年次	記 事
明治5年	・学制発布		
明治7年	・当地区に学校なきため、羽津学校へ通学していたが、はなはだ不便なため佐助宅に学校を開設し、その後、郷倉に移り授業する。この郷倉は、天神貝戸にあり火災で消失した。	明治22年	・大矢知村と垂坂村が合併される。一村に2校が存立。
明治9年	・山の一色村と垂坂村と連合して学校建議がおこる。	明治43年	・大矢知小学校と合併し、垂坂分教場と称した。 この年、教育制度が改革されて義務教育が4年から6年となったため、分校には3年生まで残り、4年生からは、大矢知の本校へ通学することになった。この年、事実上の分校が発足したのである。
明治10年	・山の一色村に榎城学校が開設される。当時の児童数は、71人であった。(明治13年)		
明治11年	・この年の10月、羽津学校より全面的に榎城小学校に移転される。	大正12年	・生徒数の増加と校舎の老朽化のため改築される。
明治19年	・朝明郡垂坂村立小学校令が発令される。	大正13年	・この10月、新校舎が誕生し、秋晴れの日盛大な落成式が挙行される。新校舎の経費は、7,227円52銭であり、人夫425人、壁土992荷と記録されている。新築と同時に、敷地も拡張される。ときの区長は五島信五郎、新築委員長は後藤駒次郎氏であった。なお、この工事
明治20年	・明治20年4月、立坂尋常小学校が開設され、分校が誕生した。(この年で10年間つづいた榎城小学校は廃校となった。)初代の先生に、もと榎城小学校の服部廷太郎氏を迎えて授業が開始された。学年は、		



●分校門札



昭和50年3月24日(月)朝日新聞記事

年次	記 事	年次	記 事
昭和16年	費は、大字垂坂の負担であった。 ・昭和になり、本校が、国民学校と改称されたので、分教場は、分校と改称される。	昭和31年	・給食室が完成し、給食職員1名増員される。
昭和23年	・生徒数に応じ、複式教授を4学級として単式教授となり、教員4名が配置され、教室の区画校地の拡張をし、現在に至る。	昭和34年	・生川清一郎先生の像が子弟により建立される。
昭和29年	・大矢知村が四日市市と合併し、四日市市立大矢知興譲小学校垂坂分校となる。	昭和47年	・この頃より、戦争の影響をうけ、児童数が減少したので、再び複式教授となる。
		昭和50年	・生徒数54名となり、プレハブ教室が増築される。
			・50年3月、廃校となり、終止符をうつ。

分校の存在は、中北勢にはほとんどなく、ことに、四日市市の中心地であり、交通の便、道路状況にとくに不便を感じないこの地に分校があることはなにを物語っているのでしょうか。私たち地区民は深く考えねばならぬことかと思えます。

最近にいたり、垂坂・小杉町を中心に団地が造成され、周辺の学校はほとんど飽和状態にあり、小学校の新設は必至となり、眺望の

よい、環境にめぐまれた垂坂・小杉の境界点に、新校舎が建設され、昭和50年4月に開校されることになりました。発展的な廃校ではありますが、100年間親しんで来た昔をしのび、せきばくの念を禁じえません。

願わくは、この地をこの地区に関係のある公共の施設に転進し、いつまでも、分校跡を親しみたいものです。